

2360 | ガラス基礎実習 II

2 単位（面接授業 2 単位）

大村俊二教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、板ガラスの加工方法と接合方法を習得し、伝統的なステンドグラスの手法、また接着技法による照明器具を制作することで、ガラス素材の特性、光の透過による効果を理解し、場と「あかり」の関わり方を考察する。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅳ」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

生活用品としての機能を持った「あかり」のデザイン・制作

授業計画

[面接授業]

- ・「あかり」のデザイン、イメージスケッチ
- ・スケッチから、型紙図を作成しガラス板をカット
- ・コパーテープの貼り付けと半田付けにより組立、又は接着剤を用いて組立

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された作品やイメージボードで評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

・2013 年度まで開設の「工芸Ⅳ」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。

・受講人数を制限する場合がある。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）